

平成25年度第1回建築学教育FD/ICT活用研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成25年10月28日（月）15：00～17：00
- II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室
- III. 出席者：衣袋委員長、澤田委員、前田委員、寺井委員、関ロアドバイザー
（事務局）井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 議事内容

1. 平成25年度の活動計画と大学改革に向けた取り組みについて

- ・ 平成25年度は、2回開催し、能動的学修の実現に向けてICTの活用を含めた効果的な学修の取り組み方策、教員の教育指導の開発、今後一層研究を進めるための検討を行う。サイバーFD研究員の意見を踏まえて見直しを行い、教育改善モデルの一層の充実・改善及び実現への取り組みを研究することになっている。
- ・ 中央教育審議会の学長アンケートから、学生の基礎知識や自ら学ぶ能力の不足、ポートフォリオでの学修行動の把握、事前事後学修へシラバスでの提示、教養と専門を融合したFDなどが求められている。
- ・ 教育再生実行会議の三次提案から、教育方法の質的転換、イノベーション創出で理系人材の育成、学修時間の増加・可視化、組織的授業マネジメントの改善、社会人の学び直しなどが求められている。
- ・ 教育振興基本計画では、自立性をともなった学修、教学システムの整備、評価の改善などと補助金の配分を含めて主体的な学び、教育の質的展開への取り組みの改革が求められている。
- ・ 学ぶ意欲さえあればNetで大学レベルの講義が受講できるMOOCが世界中で現在800万人が学んでいる。日本でもJMOOCが来年から反転授業も含めた取り組みとして開始される。

2. 教育改善モデルへの意見と検討について

7月から9月にかけて実施した教育改善モデルのアンケートには11名の教員から意見がよせられ、その意見に対して以下の検討が行われた。

- ・ 一部の意見では、BIMについて科目として捉えているなど解釈に誤解が生じている。系を超えて問題解決をすることなどが理解されていないことからBIMの説明を追加することにした。
- ・ 到達目標1、2は工学としての基礎学力、目標3、4は建築学の総合力が問われているのでBIMを通じて総合するところで価値があり、教員連携に重点を置かれている。先生が参加できる糸口を出してあげた方が良いのではないかと。連携は、「各学部学科の特長を出して下さい、特長に従って参加して下さい」など、建築に関わるあらゆる情報を可視化し、共有しながらすすめること。科目とリンクしていない並列の現状をBIMの中で統合していくこと。
- ・ 建築が変わってきている、部分ではなく全体を見通せること。教員の意識を高めることの認識を促すことを入れてはどうか。考察部分で包括的な知識と協働の文章で触れているが強調する必要があるかと。
- ・ BIMをツール表記をやめて戦略としてはどうか、BIMの理念に基づいてなど、BIM思考などの考え方。
- ・ 多面的に組み合わせるなど問題発見解決すること、問題を発見してBIMで解決する。
- ・ 到達目標2に「生産（施工）」を追加してはどうかの意見があった。
- ・ 授業のねらいで、「美しい空間・形態」の美しいを取ってはどうかの意見があり、「空間・形態などの在り方を学ぶことに留まっている」に変更してはどうかの意見があった。
- ・ マネジメント、インターンシップ、建築倫理への意見があったが、科目になってしまう事を考慮したい。
- ・ JABEE指摘が言葉は入っていないが、チーム能力あったが含む形で考慮している。
- ・ 日本文化の成立を考慮した芸術性や思考を入れてはどうかの意見があった。到達目標1の到達度に「芸術」部分の表記を入れるか、環境や伝統・文化・社会の系列に入るのか、日本の状況に鑑みながら、芸術に関する視点のみを入れてはどうか。そこで、到達目標1の到達度に④として「建築史や美学の基礎的な知識が活用できる」を追加してはどうかの意見があった。または、③の技術を「知識と技術」にしてはどうかの検討をしたが、②を変更して、「建築の機能性・安全性・芸術性に関する」に修正をかけることにした。
- ・ 防災は絵の中で標記しているが、図が小さいので拡大表示することを検討する。

V. 今後のスケジュール

- ・ 委員会での検討から到達目標、到達度、モデル等を見直し、次回の委員会に変更を検討することになっている。
- ・ 次回の委員会は12月18日（水）16時に開催する予定とした。